

新規実施項目のお知らせ

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
このたび、新たに下記の項目が受託可能となりましたのでご案内いたします。
ご利用いただきますよう、お願い申し上げます。

記

■実施日 平成30年11月28日(水) ご依頼分より

■新規実施項目

項目コード	検査項目	検査方法	基準範囲 (単位)	検体量 (mL)	容器	保存	所要 日数	実施料	判断料
1975-02	25OHビタミンD	ECLIA	ビタミンD 欠乏 20.0 未満 ビタミンD 不足 20.0~29.9 (ng/mL)	血液 3.0	X	室温	2~5	117	144 (生I)

留意事項(中医協資料より抜粋)

- 本検査は、原発性骨粗鬆症の患者に対して、ECLIA法により測定した場合にのみ算定できる。**ただし、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回に限り算定する。**
- 本検査を行う場合には、関連学会が定める実施方針を遵守すること。

(詳細は裏面参照)

● 25OH ビタミン D[ECLIA]

体内のビタミン D 不足・欠乏状態の評価に有用な検査です。

ビタミン D は、食事からの摂取に加え、紫外線の照射によって皮膚で産生される脂溶性のステロイドホルモン前駆体です。体内で活性型ビタミン D に変換されることで、腸管からのカルシウムおよびリンの吸収を高め、骨・ミネラル代謝の維持において重要な役割を担っています。体内のビタミン D 充足状態の評価には、安定な代謝産物として血中に存在する 25OH ビタミン D 濃度が用いられています。

体内のビタミン D 貯蔵量の減少によるビタミン D 作用の低下は、カルシウム代謝異常を生じ、骨粗鬆症の発症要因となります。骨折・転倒リスクの上昇につながるほか、二次性副甲状腺機能亢進症およびビスホスホネート等の骨吸収抑制剤に対する反応性低下の原因となります。

ビタミン D の不足・欠乏は決して稀ではなく、Japanese Population-based Osteoporosis (JPOS) 研究において、50 歳以上の女性 1,211 例の血中 25OH ビタミン D 濃度を測定した結果、ビタミン D 欠乏例の占める割合は 52%、不足例は 38%であり、その後の追跡調査でビタミン D の血中濃度が低いほど将来の骨折リスクが上昇することが示唆されています。

本検査は、血清中の 25OH ビタミン D を ECLIA 法により測定いたします。骨粗鬆症を始めとする代謝性骨疾患におけるビタミン D 不足・欠乏状態の判定補助に有用です。また、高齢者の骨折予防を目的とした健診での活用が期待されています。

▼疾患との関連

原発性骨粗鬆症

▼関連する主な検査項目

骨吸収マーカー (TRACP-5b、NTx、DPD)

骨形成マーカー (total P1NP、BAP)

骨マトリックス関連マーカー (ucOC)